

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校高山日赤分校

学校番号	119B
------	------

自己評価

学校教育目標	主体的に生きる力を育てる ～気づく、考える、動く～	
評価する領域・分野	進路指導	
現状及びアンケートの結果分析等	アンケートでは、学校の教育目標への共感、児童生徒一人一人の良さや可能性を伸ばそうとしている点、教職員が愛情をもち教育に熱心に取り組む姿勢を評価していただいているが、関係機関と連携した進路指導や一人一人の特性や願いを踏まえた進路支援については、「わからない」の評価も多く、課題である。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	①職員一人一人が進路指導について理解を深め、実践できるようにする。 ②児童生徒に応じた、進路学習を工夫して行う。	
重点目標を達成するための校内組織体制	①生活進路支援部、企画委員会 ②各部、生活進路支援部、企画委員会	
目標の達成に必要な具体的取組	①職員や保護者への進路研修を行ったり、進路通信を発行したりする。 ②キャリアアップウィークの取組を工夫する。	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	①進路支援についての理解を深め、よりよい進路支援を目指して取り組むことができたか。 ②キャリアアップウィーク（高等部）の取組で、生徒が目標をもって活動できたか。	
取組状況・実践内容等	①当校の進路支援の流れを進路通信として、前期の懇談で保護者に示した。また、キャリアアップウィークの取組や職員の進路研修についても、進路通信で保護者に発信した。キャリアアップウィークに行った校内作業の様子を保護者に参観していただき、その後、担任、進路指導主事と懇談を行い、一人一人に応じた進路支援が図れるようにした。また中学部2年生生徒、高等部生徒は、保護者とともに、それぞれが希望する事業所の見学を行い、卒業後の生活について考える機会となった。 職員研修として、卒業生の進路先の職員を外部講師として招き、「在学中に身に付けておきたい力～自分たちの立場からできる事～」をテーマに研修を実施した。日々の指導に必要なことを改めて考えるきっかけとなった。PTAでは、「先輩保護者と語る会」を行い、卒業生の保護者から、進路決定や実際の卒業後の生活について具体的な話を聞く機会を設けた。 ②キャリアアップウィークでは、生徒一人一人が目標を決めて、普段行っている紙すきの作業や銀行からの委託作業に取り組んだ。紙すきの製品は小、中学部の児童生徒に配ったり、校内で販売したりもした。また、飛騨地区特別支援学校交流会として、各校の作業学習の様子をオンラインで交流した。	
評価の視点		評価
①職員は、進路支援について理解を深め、学校全体で支援を進めることができたか。		A (B) C D
②中学部・高等部の生徒や保護者は、卒業後の生活について見通しをもつことができたか。		(A) B C D
③保護者と連携して取り組むことができたか。		A (B) C D
成果・課題		総合評価
○卒業生の保護者や、進路先の事業所の職員の話聞くことで、具体的な卒業後の生活をイメージすることができた。また、教員は、日々の教育活動を振り返り、指		A (B) C D

<p>導を見直すことにもつながった。</p> <p>○キャリアアップウィークでは、紙すきの製品を小、中学部の児童生徒に配ったり、校内で販売したりするようにしたことで、製品を渡す相手を意識でき、意欲的に取り組む姿につながった。</p> <p>▲当校の児童生徒の病障がいの状態は様々である。一人一人に応じた適切な進路支援を行うためには、関係機関とより連携を図りながら、情報収集等を行っていく必要がある。また、小学部段階からの効果的な進路支援を、学校全体で構築していくことも必要である。</p>	
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で進路支援に取り組むために、進路支援計画を確認し、どの職員もそれを踏まえて支援にあたる。また、必要に応じて計画を見直す。 ・児童生徒一人一人に応じた支援を進めるために、本人や保護者の思いを聞き取る機会をもち、進路指導主事と連携しながら、支援にあたる。また、学校全体でその情報を共有する。 ・生活進路支援部を中心に、関係機関の情報収集を行い、保護者や教員にその情報を提供していく。

学校関係者評価 (令和4年2月21日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人、保護者の思いを聞き取る機会をもつとよい。また、進路についての情報をより一層共有できるとよい。 ・一人一人に応じた適切な進路支援のために、引き続き情報収集を行い、本人、保護者への情報提供に取り組んでいただきたい。 ・来年度の改善方策案を具体化し、進路指導に反映していけば、保護者の協力がより得やすくなり、子どもたちの進路の可能性が広がると思う。
--